

一西だより



豊川市立一宮西部小学校通信
令和7年 2月 10日 第34号
発行;校長 村上謙一

【第5回 チーム担任制をとった学校の様子】

チーム担任制の具体像をお伝えする5回目。今回は6年4月27日に本校で「子育て」についてご講演をいただいた木村泰子先生が、チーム担任制について述べられている部分を記事から抜粋してお伝えします。

「(前略)大空小が捨てたものの二つ目は、学級担任制です。そもそも一人の教員が毎日1時間目から6時間目まで、自分のクラスの授業を行うのはかなりの負担になります。そこで大空小では学級担任制からチーム担当制へとシステムを変えました。例えば、1、2年は4学級あり、低学年チームのメンバーは5人です。年度の最初に、この5人でどの教科を担当するかを決めて、4学級の授業をします。教科を決めるときは、若い教員から選んでいきます。新任教員がいたら、「あなたはどの教科の授業を担当したい？」と最初に聞きます。その教員が「私は算数が得意だから算数を担当したいです」と言ったら、ベテランが算数を担当したかったとしても譲ります。そうやって、若い教員は得意な算数で「子供が主語の授業」をするための準備を楽しくやり、苦手な教科は他の先生に任せるのです。

チーム担当制のよいところは、学級が荒れないことです。例えば、若い教員が1組の算数の授業をしましたが、子供が騒いで授業が成立しなかったとします。それでも、同じチームの他の4人の先生が1組の他の教科の授業を担当しますから、次の時間のベテランの国語の授業では、「子供が主役の授業」ができます。チーム担当制に変えてから、学級崩壊は一度もありませんでした。最近では教員の負担軽減のため、教科担任制を採用する学校が増えています。しかし、まだ多くの学校は学級担任制のままです。それは反対する人たちがいるからでしょう。(中略)

今は学級経営だけを個々の教員が考えていけばいい時代ではないのです。学校のような課題を解決していくには、職員室のチーム力が必要であり、チーム力がなかったら1人の子供の命も守れないことにみんなが合意し、新任もベテランも、みんなが主体的に学校全体のことを考えていく必要があります。」(小学館「みんなの教育技術」web2024.8.26 より抜粋で引用/記事の転載許諾済み)

【考えてほしい！ タブレットのつかい方】

タブレットは調べ物だけでなく、みんなが自分に合った学びを進めるのに大変便利な道具です。便利なだけに、つかい方をまちがえると自分やともだちを傷つけてしまうこともあります。

タブレットをつかうみんなは、情報社会で生きていくのにふさわしい力をつけなくてはなりません。この力を「情報リテラシー」といいます。

むずかしいことではありません。いつも、「これをして、いやな思いをする人はでないか。」と考えればよいのです。

ふざけている時にこれを忘れてしまいがちです。やった人は「ついうっかりして・・・」。しかし、やられた人の心の傷はなおらないかもしれません。なおるとしたら、それにはどれくらいの時間がかかるのでしょうか。その子を大事に思うお父さんやお母さん、兄弟姉妹、おじいちゃん、おばあちゃん、お友達などの大勢の人はどれだけ悲しむかなあ。そんな想像力をきたえていくといいですよ。

「これをして、いやな思いをする人はでないか。」自分にこの問いができるかこい子供になっていきましょう。

【1/30 学校HPのアドレスが変わりました】
新しいホームページのアドレスは以下の通りです
<https://www.city.toyokawa.lg.jp/soshiki/shogakko/ichinomiyaibu/index.html>

新ホームページアドレスのQRコードです。



【バスデイ様、岡崎信用金庫様からの贈呈式】



1月31日(金)、校長室にて寄付物品の贈呈式を行いました。バスデイ様からはビブラフォン1台、別のビブラフォンの修理1台、漢字辞典40冊、スピーカースタンド2台のご寄付をいただきました。岡崎信用金庫様からはスピーカー2台のご寄付をいただきました。地域の力をいただき、子供の学習環境が整っていきます。感謝の気持ちを子供たちと共有する機会になりました。